

西南学院小学校 学校長メッセージ

「学校通信 Wings 2026 年 8・9 月号」



神はわたしたちの避けどころ、わたしたちの砦。

苦難の時、必ずそこにいまして助けてくださる。（詩編 46 篇2節）

小学校の子どもたちが夏休みに入った7月後半から、朝学校に出勤する際、幼稚園・保育園の子どもたちが、おうちの方と手を繋いでどこかに通っているところを毎日みかけました。保護者の方の姿から、おそらく小学校入学のための準備に塾に行かれているところだったのではないかと思います。信号機で止まったところで、（小さな子どもたちも、保護者の方たちも、思いを持って頑張っていっちゃるのだな。楽しく準備をしてくれたらいいな。）と願いながら、その様子を目で追いました。

さて、西南学院小学校の子どもたちは、どのような夏休みを送ったのでしょうか。いろいろお話を聞かせてもらうことを楽しみにしています。

私のこの夏は、いくつかの会議や研修会に参加し、全国の私立・公立の先生方にお会いしてお話を伺うことができました。その中で、「子どもの内にある成長する力を信じ、他者とともに生きようとする思いに寄り添い、「できる」ではなく『在る』ことを喜ぶことが大切。」というライシャワー学園（元日本聾話学校）の瀬底正嗣校長のお話から、ミッションスクールだからこそできる愛に根差した教育について改めて考えることができました。

今、目の前いる伸びようとしている子どもたち、一人ひとりの成長を保護者の皆様・全教職員とともに共有し、喜びあえることを願っています。そして、一人一人が高価で貴い存在であることを絶えず子どもたちに語りかけていきたいと思います。愛されている経験をしっかりとしている子どもたちは、人を愛することができる思いやりに溢れた優しい人に成長できるはずです。西南学院小学校で学ぶ子どもたちが、平和の使者として、周りの人にあたたかい愛を届けていけるようにと願っています。

最後に、ライシャワー学園でいつも明るく元気に過ごしているという小学六年生の女子が次のように語っていました。

「後悔したくないから、今を精一杯頑張りたい。」と。

子どもたちの今をご家庭と学校とで応援していきましょう。

何かご心配なこと等ございましたら、いつでもご連絡ください。保護者の皆様が心配なことをお一人で抱え込まないようにすることが大事です。

二学期もどうか宜しく願いいたします。

（文責 黒木佐幸）